

各位

マネックスグループ株式会社
代表執行役社長 CEO 清明 祐子
(コード番号 8698 東証プライム)

第18回「ART IN THE OFFICE 2025」選出作品完成のお知らせ

マネックスグループ株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長 清明祐子）は、「ART IN THE OFFICE」の2025年度受賞作品、鬼原美希氏による「福来旗（フライキ）」が完成したことをお知らせします。「ART IN THE OFFICE」は、当社が社会貢献活動並びに社員啓発活動の一環として実施しているプログラムで、2025年は、全国から寄せられた86点の応募作品の中から、鬼原氏の作品が選出されました。鬼原氏は、東北地方で福来旗（フライキ）と呼ばれる大漁旗にインスピレーションを得た手織りの作品を提案。審査においては、作品が放つ圧倒的な存在感、また世界中を旅し手仕事を積み重ねてきたアーティストの一貫した創作スタイルと感性が高く評価されました。そして作品展示場所であるプレスルームを船のデッキに見立て、オフィスを行き交う人々の成功を祈るタペストリーを、滞在制作中にライブで織り上げることに挑み、壁一面に大作が織りあがりました。作品の素材には、様々なストーリーを持つ、廃棄された大漁旗や魚網、鯉のぼり等が使用されています。

「ART IN THE OFFICE」は、現代アートが未開拓の表現を追求し、社会の様々な問題を提起する姿勢に共感し、当社を通じて現代アートの新進アーティストを支援する場づくりをしたいとの思いから、NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ[AIT/エイト]の運営協力を得て、2008年に生まれたプログラムです。受賞アーティストの更なる活躍を期待すると共に、社員にとっても様々な価値観や考え方を認め合うことを大切に、アーティストとの交流によって生まれる刺激から新しい着眼点を見出すことを促す狙いもあります。

今後も、企業理念に謳っている「MONEXとはMONEYのYを一步進め、一足先の未来における人の活動を表わす」ことを模索してまいります。



(写真) マネックスグループ株式会社 プレスルーム (GALAXY)

「ART IN THE OFFICE 2025」作品／鬼原美希／「福来旗（フライキ）」／2025／大漁旗、漁網、イカ釣り漁具、ウキ、ウキ用ロープ、ボンデン旗、カゴ型漁具、養殖網、海産物保管用ネット、テント、浮き輪、店頭用のぼり旗、米袋、園芸ネット、傘、雨ガッパ、ショッピングバッグ、Tシャツ、レジャーシート、ビニールシート、非粘着テープ、ポリエチレンロープ
／w 10000×h 1700 (mm)

◆作品および受賞アーティスト

1. 作品タイトル：「福来旗（フライキ）」

2. 「ART IN THE OFFICE 2025」

受賞アーティスト 鬼原美希（きはら みき）氏 プロフィール：



2012年多摩美術大学大学院修士課程テキスタイルデザイン研究領域修了。日常生活で感じたことをはじめ、世界中を旅し体感してきた、各国での染織文化や織素材の多様性、現地に住まう人々や動物のあり方、そこで経験した出来事をもとに、様々な素材を使ってタペストリーを織っている。綴れ織る行為を「体験したことを記憶に刻み込むこと」「人と人との関わり」「作品に込める祈り」として捉え活動を続ける。主な展覧会に、個展「muziki」（2025、ギャラリー白樺、鹿児島）、「Orange」（2025、江夏画廊、麻布台）、「W」（2024、いりや画廊、入谷）、「たびするおりびと meets 調布と映画」（2023、調布市文化会館たづくり、調布）などがある。今後は、白水郷アートプレイス（熊本、2026年6月13日〔土〕～7月15日〔水〕）、zenzai マージナルギャラリー（鹿児島、2026年12月30日〔水〕～1月25日〔月〕）にて個展を開催予定。

3. 鬼原氏コメント

2015年に、ポータブル織機を携え船で世界一周をしながら、各寄港地で集めた素材を織り込んだ《たびするおりびと》を制作しました。これをきっかけに、世界中を旅し体験したことをタペストリーで表現してきました。どっしりした機織り機のイメージが強い「織り」ですが、実は今現在もポータブルな織機が各国で活躍しています。中南米などでは、家の柱に経糸（たていと）を結んで腰のベルトで引っ張り、地べたに座っておしゃべりしながら織っていたり、サハラ砂漠では、ベルベル人が簡易織機で織った布を家具として遊牧していたり。「織り」は、本来とても自由で、ポータブルで、その土地の文化や風土を雄弁に語り、生活に彩りを与えてくれるものだと感じます。

本作は、東北地方で福来旗（フライキ）と呼ばれる大漁旗にインスピレーションを得た手織りの作品です。プレスルームの湾曲壁面に経糸を張ることで、壁そのものを織機化し、6日間の滞在制作中にタペストリーを一から織り上げました。このチャレンジを通して、新しい織りのノマドスタイルの発見と、プレスルーム付近を通るビジネスワーカーの方々とのおふれあいが織りの表現に活かされるシナジー効果を体感しました。本作においては、作品が生活の中にもたらすコミュニケーション、見る人が自分のこととして捉えられる感情の動きが大切だと考えていたため、作品の最後の1ブロックを20名の社員のみなさんと一緒に織り上げました。これにより、本作ならではの魅力が加わったと感じています。

素材には、全国から集めた、使われなくなった大漁旗や漁網などの漁具、お店の幟旗やテントなどを用いました。「大漁旗」というテーマに適した背景をもつ素材で描くとともに、屋外で使用されてきた廃材を織り込むことで、サステナブルかつ展示場所を選ばないストリートアートへの道も拓けました。

素材を提供下さった方々の想い、社員のみなさんとの笑顔の時間が織り込まれた《福来旗（フライキ）》は、約1年間プレスルームからみなさんを応援したあと、私の個展に合わせて全国を旅します。

◆受賞者の選考について

1. 「ART IN THE OFFICE」サポート内容

公募による応募作品の中から選出された1名（1組）のアーティストに対し、社内のプレスルームを応募作品の発表の場として約一年間提供します。選出されたアーティストには50万円の賞金および50万円の制作費が支払われる他、マネックスグループの統合報告書などへの本作品画像の掲載や、オリジナルノベルティのデザインに利用される予定です。本プログラムは、2019年に公益社団法人企業メセナ協議会の認定制度「This is MECENAT 2019」に選定され、2012年には公益財団法人日本デザイン振興会（JDP）が主催する「2012年度グッドデザイン賞」（Gマーク）を受賞している取り組みです。

2. 選考条件

- ・ 現代アートの分野で活動するアーティスト（学生可）
- ・ 企業のプレスルームという空間の特徴を踏まえ、独自性・先駆性があること

- ・ 「一足先の未来における人の活動」というマネックスの企業理念を考慮したもの

3. 2025 年度審査員（敬称略、五十音順）

熊倉 晴子 インディペンデント・キュレーター / ライター
塩見 有子 NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]理事長
南塚 真史 NANZUKA 代表
福島 良典 LayerX 代表取締役 CEO
松本 大 マネックスグループ株式会社 取締役会議長

マネックスグループ ART IN THE OFFICE website :

https://www.monexgroup.jp/jp/sustainability/art_in_the_office.html

(報道関係者様のお問い合わせ先)

マネックスグループ株式会社 ブランドデザイン室 渡辺 電話 03-4323-3983

(株主・投資家様のお問い合わせ先)

マネックスグループ株式会社 経営管理部 IR グループ 稲田、小森、松浦 電話 03-4323-8698